

プログラム名 (40字以内)	駒場IIキャンパス学食を通じた生産現場を学ぶワークショップ		
団体名/所属	本学学生(活動指導教員:生産技術研究所 川添善行 准教授)		
活動区分	農林水産業などに関わる地域体験活動・フィールドワーク体験活動	希望する選考方法	先着順
募集人数	3人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	オンラインを活用しつつ現地活動を行う		
参加者に求めるもの	駒場リサーチキャンパス「ダイニングラボ」(学食)での打ち合わせを行うため、期間中に駒場キャンパスに来ることができる学生。		
活動期間	2024/8月下旬から9月初旬、2泊3日	主な活動予定場所	駒場リサーチキャンパス学食「ダイニングラボ」北海道十勝地方(帯広市等)
プログラム実施の目的	学食で使われている食材を作る生産現場での作業体験や視察を通じて、肌身をもって日本の農業の現場を知り、農家さんの想いを伝えるべく学食を通じた発信を考える。		
具体的な内容(800字程度)	<p>2022年秋にオープンした駒場リサーチキャンパスの学食「ダイニングラボ」、当施設では全国の生産者たちがこだわりを持って作った食品・調味料を使ったメニューを提供している。</p> <p>ここで使われている米、野菜、魚、調味料は、どれもに農家・漁師たちや職人たちの並々ならぬこだわりや想いが込められている。例えば、当学食では2種類の七味が使われている。一つは鹿児島県産でもう一つは京都府産、事業者が実際に足を運び、生産者に会い見つけた、唯一無二の七味である。</p> <p>当学食は、日本全国の地域とつながり食文化を伝える学生食堂、日本の美味しい食事とコミュニケーションが生まれる新たな食堂を目指している。</p> <p>一方で、昨年にオープンしたばかりの取り組みのため、現在は生産者さんの顔やこだわりを発信する部分は準備中の段階である。駒場に通う学生が日本の地域と食文化につながるきっかけ作りを学生と共に進めたい。</p> <p>今回のフィールドワークでは</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. (7月上旬 14時～18時予定 @駒場リサーチキャンパス ダイニングラボ) オリエンテーリング:zoomを活用した使った十勝地域の概況説明(自治体職員)</li> <li>2. (8月から9月初旬で想定) 2泊3日 @北海道十勝地方 現地へ赴き、学食スタッフと共に視察学習および農業のお手伝い:畑作や酪農などの体験や加工や物流現場の視察</li> </ol> <p>1日目:移動と見学 ①とかち大平原交流センター(帯広市の試験圃場での実際の農作物の様子を見学) ②帯広百年記念館(帯広市ふくむ十勝地方開拓をはじめとするの地域史の見学)</p> <p>2日目:(朝8時ごろ～17時ごろ、小麦や豆、馬鈴薯等の畑作農家または酪農家での農作業体験(十勝管内農家) ※天候等の影響によって1～2週間の変動があるため現況での確定は難しいですが、食堂コアに関係のある農家を輪に収穫や搾乳、加工などの農作業を体験します。</p> <p>3日目:(午前中から夕方まで) 乳製品保存加工施設や小麦製粉工場、農作物保存物流施設など食農関連現場の視察を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. (10月中旬から11月中旬) 14時～18時予定 @駒場リサーチキャンパス ダイニングラボ 視察や聞き取りやお手伝いの振り返り:生産者の魅力を伝える方策を考え発表</li> </ol> <p>なお、現地の引率においては帯広市職員の皆様にご協力をいただく予定です。</p>		
【総額】参加するための費用	63,000円		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	16,000円		
【内訳】参加するための費用(交通費)	42,000円		
【内訳】参加するための費用(その他)	活動費(日中飲食費など):10,000円		
奨励金額(予定)	25,000円		
備考	<p>交通費:東京-帯広 往復飛行機とバス          宿泊費:宿泊先は、「HOTEL NUPUKA」を予定</p>		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト	<a href="https://www.foodvalley-tokachi/">「フードバレー」から推進協議会 Jhttps://www.foodvalley-tokachi/</a>		
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)	<a href="https://shokudo-komani/">「食堂コマニ」https://shokudo-komani/</a>		
この企画に対する担当者(応募団体の参加の有無)	参加する		